

整理番号 2025M-038
補助事業名 2025年度 中国地域広域ネットワークを活かした産学官連携による新産業創出
補助事業
補助事業者名 公益財団法人 中国地域創造研究センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

「中国地域の企業」と「大学等研究機関」が連携して、互いに単独では解決できない技術的・事業的課題を効率的に解決して、企業における実用化・事業化を行い、中国地域経済の発展に寄与することを目的とする。

本事業では、中国地域内の広域ネットワークを活用して、研究シーズと企業ニーズの適切なマッチング／審査・採択されたテーマに対する研究実施中の伴走支援／事業化へのフォローも含めた一貫した支援を、以下の2つの活動により実施する。

① 新産業創出研究会

工業製品・食品・医療等の幅広いものづくり分野において、大学等研究機関の研究シーズと企業ニーズがマッチした研究テーマを実施し、企業における事業化・実用化を目指す。

② 質感色感研究会

「ひと味違ったものづくり／魅力的な商品・サービス創出」のために、質感や色感など感覚的で定量化しづらい特性を様々な手法で評価して「感性的価値」を付与し、企業における新たな商品開発／既存商品の競争力強化を目指す。

(2) 実施内容及び成果

① 新産業創出研究会

(a) 当年度分研究テーマの実施 (<https://crirc.jp/jigyonaiyou/rd/shinsan/ke/2025.php>)

前年度に審査・採択された下記の14件のテーマについて、研究費助成を行うとともに、研究実施段階においては、テーマ毎に大学等研究機関／連携企業／当センター等の研究メンバーによる「定例会議」を実施した。

No.	テーマ名	研究代表者
1	建築物外壁の高精度欠陥検出を行うための UAV 自律飛行による完全自動システム	岡山理科大学 教授 クルモフ バレリー
2	バイオマス由来カーボンへの窒素官能基導入と新規 CO ₂ 吸着材の開発	広島大学 教授 萩 崇
3	次世代型生体吸収性食道ステントの開発と臨床応用	広島大学 教授 桑井 寿雄
4	植物由来化合物等を活用した耐腐食性・耐変色性に優れた CLT 建材の開発	就実大学 准教授 山田 陽一
5	膵癌における多剤併用化学療法に対する個別化医療体外診断薬の開発	山口大学 教授 永野 浩昭
6	前立腺癌診断のための前立腺生検用汚染防護パンツの開発	広島大学 助教 宮本 俊輔
7	フォトグラメトリ技術による手術書の簡易 3D 化と手術手技教育への展開	鳥取大学 准教授 福原 隆宏
8	リハビリ用装具継手に対する JIS に基づく耐久性試験を目的とした試験機の開発	徳山工業高等専門学校 教授 西村 太志
9	マルチイオンプローブ計測システムの実用化に関する研究	広島工業大学 教授 八房 智顯
10	スリットダイコーティングによる大面積ペロブスカイト太陽電池薄膜の開発	岡山大学 研究准教授 鈴木 弘朗
11	蚊の羽ばたきを可視化するモスキートカメラ	広島大学 助教 島崎 航平
12	新しい医療器具「糸切り用リッパー」の製造及び臨床現場への普及の取り組み	広島大学 診療講師 永松 将吾
13	低コスト全方位カメラデバイスを用いた配管内壁の輪帯一括自動点検システムの開発	福山大学 准教授 伍賀 正典
14	ヘマタイト (α 酸化鉄) を用いた植物機能増進技術の開発	山口大学 准教授 佐々木 一紀

「定例会議」は計42回開催し、下記のような内容の助言・進捗管理等の伴走支援を実施した。
第3回定例会議においては、各々の研究テーマで設定した目標値についての達成率を評価しており、目標達成率の全テーマ平均は83.6%であった。

【定例会議の内容】

▶ 第1回定例会議（4月21日～5月19日）

研究代表者から、1年間の研究計画・研究目標等を説明してもらい、研究メンバーで研究の進め方等についての議論。

▶ 第2回定例会議（9月9日～11月14日）

研究代表者や連携企業から、上期の研究進捗状況について報告してもらい、研究メンバーにて課題や解決方法等について議論。

▶ 第3回定例会議（1月22日～3月2日）

研究代表者や連携企業から、1年間の研究進捗状況について報告してもらい、1年間の研究成果並びに次ステップに向けた進め方についての議論。

また、定例会議を受けて追加フォローが必要な場合は、大学等を訪問する等して、研究の進め方について議論するフォロー活動も7回行った。



〔定例会議の様子〕

これらの活動により、各テーマの事業化・実用化に向けた研究課題解決を進めることができた。
さらに、進捗管理を行うことにより、2025年度中に、次ステップとしての大型補助金応募・採択に至った研究テーマも1件あった。

（b）翌年度向け新規テーマの発掘、アフターフォロー活動

翌年度向け新規テーマ発掘のために、1年間を通じて、コーディネータによる大学等や企業を訪問するシーズ・ニーズの調査、さらには調査結果を応募テーマに結びつけるための、大学等・企業のマッチング活動を行った。

これらの活動により、2026年度の応募テーマのうち、コーディネータによる応募テーマ発掘件数は20件となった。

また、新産業創出研究会の過去案件の、その後の事業化状況の調査も、メールや対面等で行っており、調査の結果、

- ・事業化した事例 1件
- ・大型補助金にステップアップした事例 3件

あり、本研究会にて実施した研究テーマが、事業化に向けて着実に進んでいることがわかった。

(c) 翌年度向け新規テーマ公募 (<https://crirc.jp/jigyonaizou/rd/shinkachi/theme/2026.php>)

翌年度向け新規テーマの公募を、2025年7月23日～10月8日にかけて行った結果、応募テーマ総数は25テーマとなり、2025年12月3日開催の第三者委員会による審査を経て、以下の15テーマを採択した。

No.	テーマ	研究代表者
1	ゲノム編集によって作出した高 GABA イネから耐暑性系統の選抜と社会実装	島根大学 教授 赤間 一仁
2	内視鏡治療後の合併症予防に用いる操作性に優れた汎用縫縮デバイスの開発	広島大学 助教 岸田 圭弘
3	座り心地を個別最適化するラティス構造クッションの設計・製造技術の開発	広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 研究員 富田 佳央
4	2流体ノズル・湿式紡糸法によるマクロスケールカーボンナノチューブ紡績糸技術の開発	岡山大学 教授 林 靖彦
5	ロコモティブシンドローム対策を目的としたショウガ由来細胞外小胞による機能性食品素材の開発	広島大学 准教授 中佐 智幸
6	快適な遮音・暑熱対策を備えた子供用応援イヤーマフ (OmimimO) の研究開発	比治山大学短期大学部 教授 七木田 方美
7	碎石事業所で発生する粉塵を用いた合成粘土の量産化技術の開発	山口県産業技術センター 専門研究員 細谷 夏樹
8	樹脂コーティング技術による安全かつ低コストの医療用シリンジの開発	広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 副部長 小島 洋治
9	回転して水田除草を行う外装突起形状を有する小型球体除草ロボットの開発	津山工業高等専門学校 教授 曾利 仁
10	足関節装具効果を「見える化」することで治療の質向上を目指す装具制動性評価装置開発	島根大学 講師 今出 真司
11	大規模心疾患スクリーニングを可能とするハンドグリップ型簡易心電計搭載 AI 診断ツールの研究開発	広島大学 助教 宮内 俊介
12	大規模木造建築に向けた高強度で低コストの積層繊維板の開発	岡山大学 教授 高麗 秀昭
13	悪路環境を考慮した除草作業ロボットの横滑り抑制制御システムの開発	岡山理科大学 講師 横田 雅司
14	粉末黒鉛を原料とした電気化学的手法による酸化グラフェンの大量合成方法の確立	岡山大学 助教 古茂田 将人
15	輸入品に替わる地域の竹を用いた低コストで環境負荷の小さいイチゴ栽培用培地の開発	山口大学 准教授 佐合 悠貴

② 質感色感研究会

(a) 当年度分研究テーマの実施

(<https://crirc.jp/jigyonaizou/rd/shitsukan/pdf2/2025-unei.pdf>)

今年度は、新規加入の2社を加えた企業9社、指導研究者28名の体制となり、その中で下記の6社については、企業と指導研究者による「個別検討会」を計40回開催し、企業の個別課題解決を行った。

No.	企業名	主な商品・サービス
1	アトム (株)	工業用手袋、履物等
2	(有) ひわだや	桧皮茸、桧皮製品 (照明、壁材等) の製造、販売
3	(株) コーポレーションパールスター	靴下及びサポーターの製造販売
4	(株) 中本本店	印刷業
5	(株) ウッドワン	内装建材及び住宅設備機器の製造・販売
6	ICHI DESIGN OFFICE	子供向け家具の開発

さらに、各テーマの企業・指導研究者全体を集めた、合同の「研究発表会」を2回開催し、企業に研究計画や成果を発表してもらうことで、研究者や参加企業同士で、研究の進め方に関する活発な意見交換ができた。

これらの活動により、企業における製品開発・販売促進等の個別課題の解決を進めることができた。



〔研究発表会の様子〕

(b) 翌年度向け新規テーマ公募 (<https://crirc.jp/jigyonaiyou/rd/kansei/theme/2026.php>)

翌年度向け新規テーマの公募を、翌年度以降の制度見直しに対応するため、2025年7月23日～10月8日に、新産業創出研究会の公募と時期を合わせて行った。

応募テーマ総数は6テーマとなり、2025年12月3日開催の第三者委員会による審査を経て、以下の6テーマを採択した。

No.	テーマ名	企業名
1	CFRP 姿勢矯正座椅子並びに ALL CARBON CHAIR2 の座り心地と機能増進研究	応原工業 (株)
2	無垢を育て、無垢に触れる ユーザーへのアプローチ方法と商品改良の検討	(株) ウッドワン
3	サイズフリーの労災用転倒予防靴下の開発	(株) コーポレーションパルスター
4	ズレないムレない楽しくクッションの検証	(株) コーポレーションパルスター
5	脚部保護における人間工学を取り入れた快適性・安全性の追求	アトム (株)
6	アートパネルの開発	(有) ひわだや

2 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

[公募用チラシ3種]

https://crirc.jp/jigyonaiyou/rd/shinkachi/pdf/2026/s_chirashi.pdf

https://crirc.jp/jigyonaiyou/rd/kansei/pdf/2026/k_flyer1.pdf

https://crirc.jp/jigyonaiyou/rd/kansei/pdf/2026/k_flyer2.pdf

新産業創出研究センター 2026年度 新規研究テーマ募集

企業ニーズを顕微鏡し、新しい価値を創造するために、研究機軸の技術・知見を共有し、**そんな企業の苦悩へ**、**そんな研究機軸の価値へ**

研究機軸の技術シーズを社会実装するために、研究員の助成や企業の取組を強化

両者にとって嬉しい共同研究の制度があります

中国地域創出研究センター

研究費の助成 **100万円**

新価値創出研究プロジェクト

企業 (産業界) 大学等

研究費の助成 100万円

企業 (産業界) 大学等

特徴

【これまでの活用事例】

自社では難しい...とあきらめる前に

これまで知ることになる企業新創出センターの助成を、ぜひご活用ください。

産研協の補助事業 このチラシは、産研協の補助により作成しました。 <https://kai-cycle.jp>

2026年度 「テーマ公募」

感性価値等育成支援プロジェクト (感性価値)

～ 産研協・真積色成研究会 ～

産研協等産学連携プロジェクト (産研協) は、感性工学や人間工学を応用し、産業界で顕微鏡な価値を科学的に計測・分析して「見える化」することで、「ひとと違うモノづくり」を目指す活動です。産研協より感性工学/人間工学の研究者を応援し、1年間指導を受けられることができます。今年度の参加企業を公募しますので、喜んでください。

社会課題の解決が目的です。

産研協等産学連携プロジェクト (産研協) は、感性工学や人間工学を応用し、産業界で顕微鏡な価値を科学的に計測・分析して「見える化」することで、「ひとと違うモノづくり」を目指す活動です。産研協より感性工学/人間工学の研究者を応援し、1年間指導を受けられることができます。今年度の参加企業を公募しますので、喜んでください。

産研協の補助事業 このチラシは、産研協の補助により作成しました。 <https://kai-cycle.jp>

モノづくりにおける研究開発の質の向上、特定課題の解決に貢献する企業へ

互なる発展向上を両立させることを目指す

自社では難しい...とあきらめる前に

専門知識を持つ研究者から

アドバイスを1年間無料で受けられる制度があります

感性価値等育成支援プロジェクト (産研協)

企業 (産業界) 大学等

産研協の補助事業 このチラシは、産研協の補助により作成しました。 <https://kai-cycle.jp>

[事業化事例パンフレット]



[応募テーマ審査用資料]



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの
なし

3 予想される事業実施効果

(1) 新産業創出研究会

研究会終了後、直ちに、事業化・商品化したテーマはないものの、事業化・実用化に向けて、各テーマは

- ・より実用化に近いステージの研究を行うために、大型補助金の獲得を狙うもの
- ・大学等研究機関と企業とで、継続して研究を続けていくもの
- ・大学ベンチャー設立を目指すもの

等、それぞれ次ステップに向けた研究活動を継続している。中には年度末既に、大型補助金の獲得に成功したテーマもある。

また、本研究会の過去案件の追跡調査でも、この1年間で「事業化された事例1件／大型補助金にステップアップした事例3件」が確認されており、今年度実施した研究テーマからも、数年後には事業化に到達し、新産業の創出へ貢献することが期待できる。

(2) 質感色感研究会

研究会終了後、直ちに、事業化・販売促進につながったテーマはないものの、各企業の課題解決は進んでおり、来年度も継続して事業化・販売促進等に向けた課題解決を行っていく。

テーマの中には、本研究会から発展して、大型研究補助金の獲得に成功したものもあり、今後は、各企業における事業化・販売促進等の事例創出が期待できる。

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人 中国地域創造研究センター
(チュウゴクチイキソウゾウケンキュウセンター)

住所： 〒730-0041
広島県広島市中区小町4番33号 中電ビル3号館

E-mail: zdkikaku@crirc.jp

URL: <https://crirc.jp/>